

国際交流基金助成事業報告書

大阪医科薬科大学 薬学部 2年次 坂本漱流

研修先 TAFE NSW-Kingscliff

研修期間 令和6年3月11日～3月20日(10日間)

語学研修で得られたこと

- 1、英語授業について
- 2、オーストラリアの生活について
- 3、語学研修の感想

1. 英語授業について

研修前の私は、英語の楽しさがわからずただ海外に一度行ってみたいという気持ちだけで今回の語学研修に参加した。TAFEでの英語レッスンは、最初は現地の講師の方々が喋っている内容を聞き取ることが難しく所々しか聞き取ることが出来なかった。講師の方々は、私たちが英語を話やすい環境を作ってくれた。例えば初日のレッスンではビーチの安全性について学んだが、知らない単語が出てくるとわかりやすい単語で説明していただいたり、写真や動画を見せて頂いたり楽しくレッスンに取り組むことができた。レッスン中のティータイムでは皆と会話することが出来る時間で、講師の方々がパンやコーヒー、紅茶などを作ってくれた。このような、全体が和みやすい環境の下、私はすぐに色々な方と話をする事ができた。また、オーストラリアの日常会話で使われている英語にも驚かされた。例えば英語で “No problem” と言うことがあるが、オーストラリアでは “No worry” と発音し、”Swim pants” ではなく “Swim shorts” ということ、”Yes No” はすこし硬い表現で “Yep nah” と言うことを知った。また親しい仲だと ”Thank you” などの後に “mate” をつけることを学んだ。これらのことは、日本で英語の勉強をしているだけでは知り得る事は出来ないだろうと思った。



2. オーストラリアの生活について

オーストラリアの生活で私が初めに驚いたことは寝室の枕の数だ。日本では一つのベッドに1つくらいしかないが、海外ではぐっすりと眠れることから枕の数が多いようだ。ベッドは大きく快適だ。海外は土地が広いから各々の家が横に広く1階建てが多いように感じた。私のホームステイ先も家が広く1階建てだ。風呂場が2か所あったり、庭には修理のためか小型クレーザーが置かれていて驚かされた。基本的に朝食はサンドイッチとシリアルだ。サンドイッチにはオムレツ、チーズ、トマトなどを挟んだものだ。野菜が少ないように感じたがおいしかった。また、海外は時間に緩いと聞いていた通り、朝食を準備し始める時間が、家を出発する時間の50分前などかなりギリギリの時間だった。TAFEへ向かう時高速道路に入るなどオーストラリアは土地の広さから高速道路も多くあることが分かった。オーストラリアの人々はとてもフレンドリーで本当に心地の良い国だ。ゴールドコーストで観光している際、通りかかる人々が手を振ってくれたり、スーパーのレジでは「どこから来たの?」と話かけてくれたり。私の一番の思い出として、ゴールドコーストの観光がある。ゴールドコーストは、オーストラリアの観光地の一つであり、東京のような高層ビルが多く建っていた。その中の一つであるQ1を訪れたが、とても高くエレベーターで上がるとき77階までであることに驚いた。ホームステイ先では、ホストファミリーが快く向かい入れてくれて初日から楽しく過ごすことが出来た。オーストラリアのビールを飲みたいとホストファザーに伝えると、夕方にボトルショップに連れて行ってもらった。オーストラリアでよく飲まれているビールの一つxxxx Goldはビールが嫌いな私でもとても飲みやすく、おいしかった。オーストラリアで出る食事のほとんどは野菜が少なく、朝はシリアル、昼はサンドイッチ、夜は肉がメインとした食事が多かった。また日本との物価の違いに驚かされた。日本での飲み物は1缶およそ100円程度であるのに対して、オーストラリアでは1缶300円くらいでとても高く感じた。

3. 語学研修の感想

渡航前は、初めての海外ということもあり不安と緊張が入り混じっていた。しかしオーストラリアについてみると、現地の方々が親切に向かい入れてくれ、緊張がほぐれる環境を作ってもらい本当に楽しく研修することができた。渡航前は、自身の英語力がどのくらい通用するかを確認すること、また多くの人と話す機会を作るという目標があったが、今回の語学研修で両目標を達成することができた。また話すことはできても、聞き取る力が劣っていることや話す時にアクセントに注意しないといけないことを知った。英語が苦手な私でしたが、この語学研修を通して、よりいっそう海外へ行ってみたいと思う気持ちが強くなり、より英語力を伸ばそうと思った。